

平成 30 年度の事業概況

JAたじま自己改革の取り組み状況について

JAたじまでは、中期計画 Plan2020 を自己改革プログラムと位置付け、持続的な地域農業の維持・振興とくらしやすい地域社会の実現に向けて、総合事業を通じた「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」を基本目標とする自己改革に取り組んでいます。

I. 農業生産の拡大と農業者の所得増大

取組事項	具体的施策	平成 30 年度の取組状況・実績
直販米の販路拡大	コトリ育むお米の関東圏への販路拡大	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 関東 1 都 11 県をエリアとする生協グループとの取引伸長 平成 29 年度実績 48 t →平成 30 年度実績 60 t
	インターネット販売の拡大	<ul style="list-style-type: none"> ➤ ショッピングサイト「地米屋」の販売拡大 平成 30 年度実績 7,628 万円（前年比 137%増）
環境に配慮した米づくりの促進	GLOBALG. A. P. の認証取得	<ul style="list-style-type: none"> ➤ GLOBALG. A. P. の認証取得のコトリ育むお米のうち、約 50 t で有機 J A S 認証を取得。
コトリ育むお米のブランド力強化	東南アジア等への輸出拡大	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 輸出 5 か国（米国・シンガポール・香港・U A E ・オーストラリア）
地産地消を広げる直売所の整備	たじまんま和田山の開設	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 10 月にエコープ併設型直売所「J A ファーマーズ・たじまんま和田山」ブランドオープン
たじまヒールマンの生産・販売拡大	有利販売による販売高の拡大	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 天候不順による出荷量減も、有利販売により販売高 1.95 億円（前年比 101%）
朝倉さんしょの生産・販売拡大	作付本数と販路の拡大	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 継続的な販路拡大に取り組み、5 年連続の販売高増（3,659 万円）

II. 持続的な但馬農業の実現

取組事項	具体的施策	平成 30 年度の取組状況
稲作におけるコスト低減支援	低コスト新技術・資材の導入	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 密苗移植の実証試験を実施 ➤ 担い手向け大型規格農薬の取扱い品目を増加（2→3）
広域型集落営農組織の育成・支援	広域型集落営農組織の立ち上げ支援	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 県制度による「地域農地管理事業」を 1 地区で開始。 ➤ 管内 2 地区で意見交換会を開催
小規模農家の営農活動支援	年回資材購入・施設利用カガゲの作成	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 平成 29 年度から作成・配付した「栽培のしおり」の利便性向上に向けた改良を実施

Ⅲ. 但馬牛の生産振興

取組事項	具体的施策	平成 30 年度の取組状況
補助事業を活用した畜産振興	J A リースによる牛舎の整備	➤ クラスター事業を活用し、個人農家の牛舎および町営パート牛舎を設置
	繁殖素牛の導入	➤ 平成 31 年 2 月時点 3,954 頭 (前年比+241 頭)
繁殖周期の短縮や子牛事故率の低減に向けた指導強化	個体管理の徹底と牛舎環境の改善	➤ 鼻腔吸入ワクチンや牛舎衛生薬剤の継続的な配付・使用促進
但馬牛の伝統と系譜を守るための育種・改良方向の堅持	日本農業遺産の取得	➤ 平成 31 年 2 月「兵庫美方地域の但馬牛システム」が日本農業遺産認定

Ⅳ. 地域の活性化

取組事項	具体的施策	平成 30 年度の取組状況
地域に根ざした信用・共済事業の展開	農家世帯向け税務相談会の開催	➤ 平成 31 年 1 月開催 (14 名参加)
	ローンプラザの開設	➤ 平成 31 年 4 月より豊岡市九日市にローンプラザ開設 (八条分店併設)
	総合渉外担当者の拡充	➤ 平成 30 年度より全ての総合支店で総合渉外担当者を配置
地域ふれあい活動への組合員の参画と活動の充実	支店運営委員会の機能・名称の見直し	➤ 平成 30 年度から支店運営委員会を「地域ふれあい委員会」に名称変更
地域貢献の取組	交通安全教室の開催	➤ スタントマンを起用した自転車交通安全教室の開催 平成 30 年度実績管内 5 中学校
	シルバーサポート活動の実施 (LP ガス)	➤ 高齢世帯への器具点検・安全指導 平成 30 年度実績 101 件訪問
	食農体験教室「あぐりキッズスクール」の開講	➤ 但東・香住・八鹿会場で開催 平成 30 年度実績 3 会場 56 名参加

Ⅴ. 経営基盤の強化

取組事項	具体的施策	平成 30 年度の取組状況
コンプライアンス態勢の強化	会計監査人監査の導入に向けた内部統制の整備	➤ 経済事業について内部統制強化に向けた業務マニュアルを整備
総合性と専門性を持った職員の育成	人材育成プログラムの策定	➤ 令和 2 年度からの新人事制度導入に向けてプロジェクト等でプログラム骨格を検討

営農事業

営農振興

- 「第2回 JA たじま営農振興大会」を開催し、2020 年に向けた営農振興の方向性を示しました。(参加者 495 名)

お米の振興

- 生産者所得の増大のため、「多収穫米」や「業務用米」の作付提案に取り組みました。
- コウノトリ育むお米(無農薬)のGLOBALG.A.P.(※)認証を取得した作付分において、「有機 JAS 認証」を取得しました(50 トン)。
- お米の生産部会で、田植えや生きもの調査、稲刈りなどの消費者交流会を通じて、産地PRと食農教育活動に取り組みました。
- 但馬のお米を全国の消費者に販売するため、楽天市場・Amazon・Yahoo ショッピングの「地米屋」サイトで米のインターネット販売に取り組み、多くの方にご利用いただきました。
- コウノトリ育むお米の関東での販路・販売拡大に取り組み、生協への出荷が大きく伸びました。
- コウノトリ育むお米について、香港現地スーパーでの販促活動やドバイでの国際総合食品見本市への出展、シンガポール日本人小学校で食農・食育教育の一環として紹介するなど、様々な形で海外販促・PRを行いました。

特産物の振興

- たじまピーマンの産地拡大と安定生産に向けて、新規生産者や栽培面積を拡大する生産者への苗代助成や、拍動灌水装置設置助成を行いました。
- たじまピーマンの販売高は、7月上旬の豪雨と記録的な暑さにより、出荷量は前年対比74 %となりましたが、有利販売につとめた結果、販売高は前年対比 101.4 %の1億9,546 万円を確保しました。

- 朝倉さんしょの栽培本数の増大と集荷量の確保に取り組むとともに、展示会への出品や冷凍加工による通年販売に取り組むなど、積極的なPRと販路拡大に取り組んだ結果、前年比 129 %、販売高 3,659 万円となり、5年連続の前年増加を達成しました。
- 生産者所得の向上に向けて、TACの提案をもとに担い手生産者を中心として大納言小豆の省力化出荷に取り組みました。

営農指導・利用・資材・農機事業

- 「このとりカントリーエレベーター」では、利用量の拡大に向けて大口利用者対策を実施するなど、利用者に喜んでいただける運営につとめました。
- TACと総合支店長による訪問活動に取り組み、担い手農家や営農組織の皆さまからのJAに対する要望やご意見を伺いました。
- 経営規模の拡大を支援するため、農機等の購入補助事業に取り組みました。
- 「平成 31 年産米栽培のしおり」を作成して水稻栽培に係る各種とりまとめを一括して行い、栽培暦にそった水稻資材の推進を行いました。
- 大規模担い手農家を中心に多収穫米の推進に合わせて低コストの大型規格の農薬や銘柄統一した肥料を提案し、多くのご利用をいただきました。

直売所の活動

- 平成 30 年 10 月、南但エリアの農産物産直の拠点として、和田山支店構内に「JA ファーマーズ・たじまんま和田山」がグランドオープンしました。
- 開店8年目のファーマーズマーケット「たじまんま」は、地域の方はもとより多くの観光客にご来店いただき、6億5千万円を超える売上高を達成しました。
- 栽培講習会・出荷者大会では一層の手取り向上に向けて、新しい品目・花卉類などの情報

を積極的に提供しました。

- 豊岡北、出石、香住、浜坂の朝市のほか、日高、養父、和田山(たじまんま和田山へ移行)の量販店内インショップ「農協の八百屋さん」で地元野菜の直売活動に取り組みました。

畜産事業

繁殖和牛・但馬産肥育牛の振興

- 但馬牛の継続的な改良方針が高く評価された結果、但馬家畜市場では11月・12月・1月のセリ市で雌・去勢共に子牛平均価格が100万円を超えるなど、年間を通じて高い相場を維持しました。
- 第100回兵庫県畜産共進会が神戸市で開催され、JAたじま管内から種牛の部12頭、肉牛の部に8頭出場し、優秀な成績を収めました。
- 牛の戸籍簿にあたる「牛籍簿」などを活用した固有の血統を守るために長年続けられてきた育種改良システムが高く評価され、「兵庫美方地域の但馬牛システム」が日本農業遺産に認定されました。

但馬牛のブランドを高める肉の店

- 但馬以外の方にも但馬牛の魅力を知ってもらうため、ふるさと納税の謝礼品としての提供や、インターネット販売に取り組みました。

福祉・経済・生活事業

くらしに安心を与える福祉事業

- 豊岡東デイサービスセンターや七釜デイサービスセンター、豊岡ショートステイにおいて訪問介護・居宅介護支援と連携した通所介護・短期入所生活介護サービスの提供を行い、利用者・家族の皆様が安心・満足していただける施設運営につとめました。
- 豊岡・浜坂・八鹿・和田山の各介護センターで訪問介護事業・居宅介護支援事業に加えて高齢者生活支援事業に取り組み、多くの方にご利用いただきました。

くらしの安全・安心を守る生活購買事業

- 国産原料商品を中心とした、安全・安心でくらしに役立つ商品を、「JAくらしの宅配便」を通して女性会員や組合員にお届けしました。

快適で環境にやさしいLPガス事業

- 24時間365日体制で、利用者の保安体制を堅持しました。特に高齢世帯への配慮として、器具の点検と安全指導を行う「シルバーサポート活動」に取り組みました。
- ガス器具合同展示会(たじまウィズガステん)をたじまんま隣接地で開催し、多くのお客様にご来場いただきました。

健康で文化的な生活を応援する生活文化事業・旅行事業

- 女性会の生活文化活動や健康福祉活動、組織購買に対する支援を行いました。
- 組合員の健康管理の一環として、町ぐるみ健診、特定健診を実施しました。
- JAたじま海外特別企画として、「アンコール遺跡を巡るカンボジア4日間」「スペインバルセロナ・マドリッド6日間」を実施しました。

信用事業(地域密着型金融への取り組み)

農業メインバンクとしての取り組み

- 地域の農業メインバンクとして、支店とTACが連携して「農業応援アグリマイティー資金」の融資に積極的に取り組みました。
- 農畜産物の販売代金を有利に運用し農家を応援するため農家世帯支援定期貯金の取り扱いを行いました。
- 新規就農者を対象とした税務相談会を開催し、14名にご参加いただきました。

生活メインバンクとしての取り組み

- たじまの農産物が当たるJA独自の選べる定期貯金キャンペーンを展開し、多くの方に

ご利用いただきました。

- 新たに年金を受給される方など、多くの方に年金の受給口座をJAにご指定いただきました。
- 身近で安心な「生活メインバンク」として各種ローンの金利軽減キャンペーンを展開し、メインバンクとしての機能発揮につとめました。

利用者満足度の向上

- 組合員・利用者からの相談対応の場として、各種相談会を開催しました。
- 年金友の会会員へのサービスとして、誕生日・喜寿・米寿を迎えられた方へプレゼントをお送りしました。
- 年金友の会グラウンドゴルフ大会を全但バス但馬ドームで開催し、地区予選を勝ち抜いた66チームが出場しました。

共済事業

ひと・いえ・くるまの総合保障の拡大

- 充実した保障で自然災害に備える建物更生共済「むてきプラス」の普及につとめました。
- 世帯の保障点検活動「3Q訪問活動」を通じて、ひと・いえの保障の普及拡大につとめました。

もっと便利に、さらに安心

- ペーパーレスとキャッシュレス契約を拡充し、組合員の利便性の向上と契約手続きの簡便化を実施しました。
- スタントマンによる自転車交通安全教室を開催し、交通安全の啓発活動を行いました。
- 子育て世代を応援する「JAたじまJA共済アンパンマンこどもくらぶ」の活動として、「アンパンマンショー」を開催し、多くの方にご来場いただきました。
- JAを身近に感じていただくため、夏休みのこどもたちを対象とした「サイエンスショー」を開催しました。

組織面の活動

- 地域の活性化を目指し、組合員、地域ふれあい委員会、役職員が協力して、「地域ふれあい活動」に取り組みました。
- 地産地消の促進に向けて、但馬産野菜を使った料理教室「クッキング・フェスタ」を開催しました。
- ママ友くらぶの開催を通じて、子育て世代の女性を応援し、女性会フレッシュミズ会員募集などの仲間づくりに取り組みました。また、今年度新たに女性会フレッシュミズグループが、2グループできました。
- ママ友くらぶ開催回数 7回

教育・学習の活動

- 農と食のつながりを楽しく学び、但馬の農業を好きになってもらうため、地元の農家などに協力いただいて、小学生を対象とした食農体験教室「あぐりキッズスクール」を3会場で開催しました。

地域貢献活動

- 地域の活性化を目的に、本店調理施設「キッチンたじま」で婚活イベント「Sunday Kitchen」を開催し多くの方にご参加いただきました。
- スポーツを通じた健康づくりや仲間づくりを応援するため、「JAたじま杯」として地域のスポーツ大会(少年サッカー、小学生バレーボール、婦人バレーボール、少年野球、小学生卓球)に協賛しました。

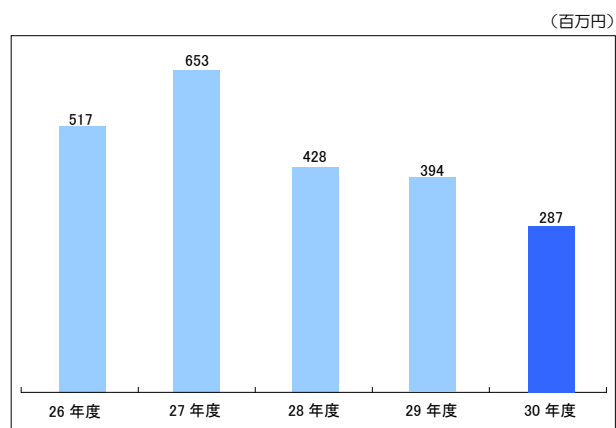
経営面の活動

- 「内部統制システム基本方針」を制定し、より体系的に内部統制やコンプライアンスの取り組みを実施しました。
- 令和元年度決算から始まる会計監査人監査に備え、主要事業について内部統制強化に向けた業務マニュアルを整備しました。

平成30年度の主な業績について

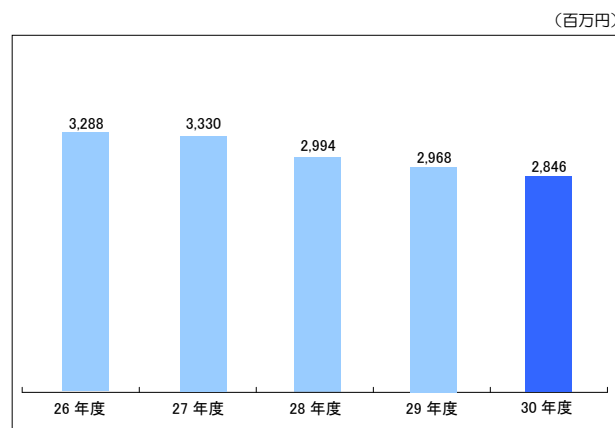
■事業利益

2億8,732万円



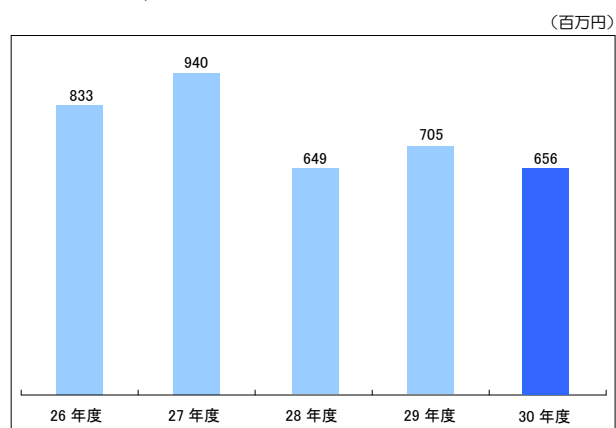
■購買品取扱高

28億4,690万円



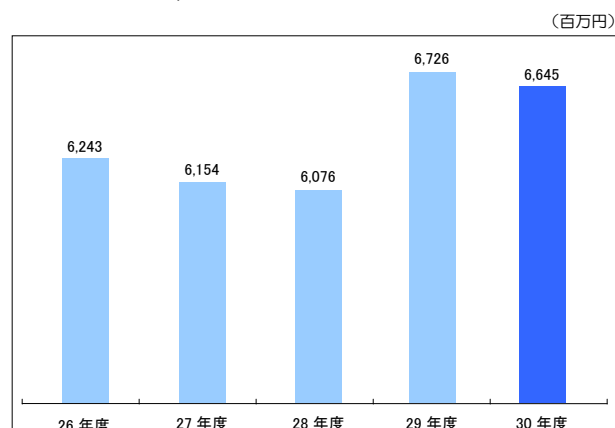
■経常利益

6億5,657万円



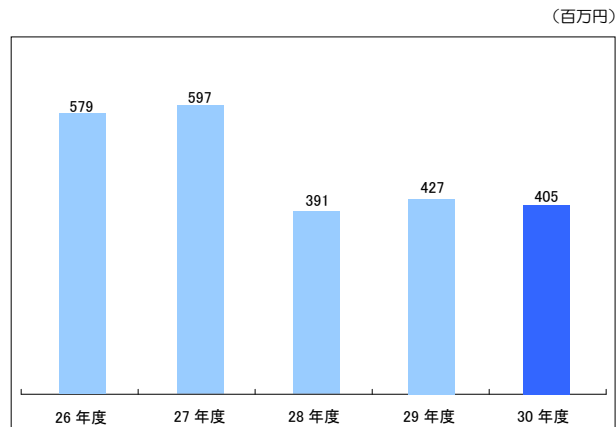
■販売品取扱高(受託販売)

66億4,543万円



■当期剰余金

4億596万円



J Aたじまでは、平成25年度決算にかかる配当より、出資配当に加え、新たに事業分量配当を導入しています。

これは、「協同組合は利用者組織であり、組合員の事業利用によって生み出された剰余金は出来る限り組合員事業利用者へ還元する」という考えから導入したものです。

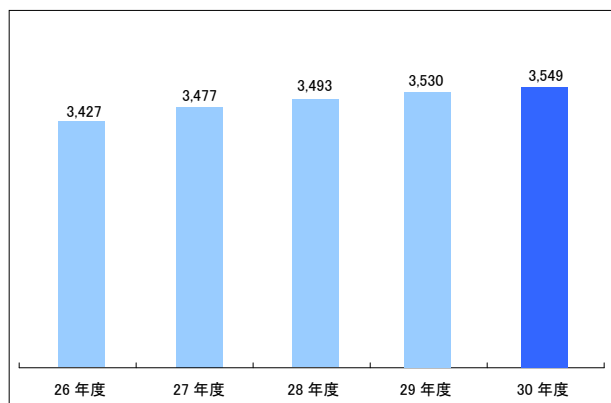
配当基準等については、42ページの剰余金処分計算書をご覧ください。

平成 30 年度の主な業績について

■貯金残高

3,549 億 867 万円

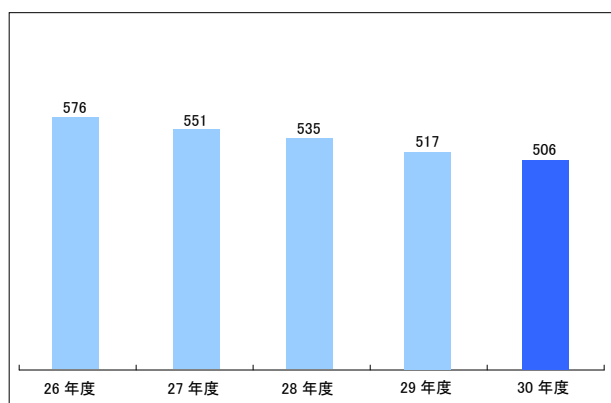
(億円)



■貸出金残高

506 億 8,150 万円

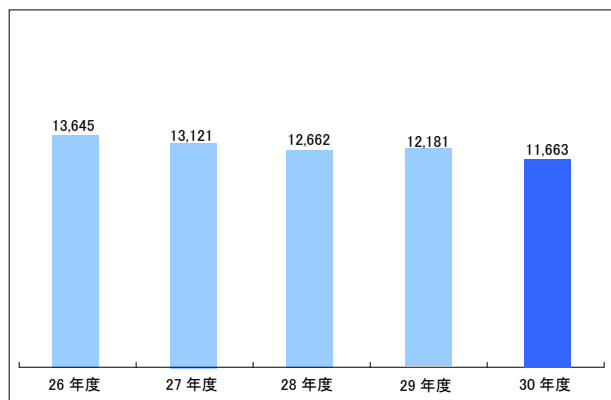
(億円)



■長期共済保有高

1 兆 1,663 億円

(億円)



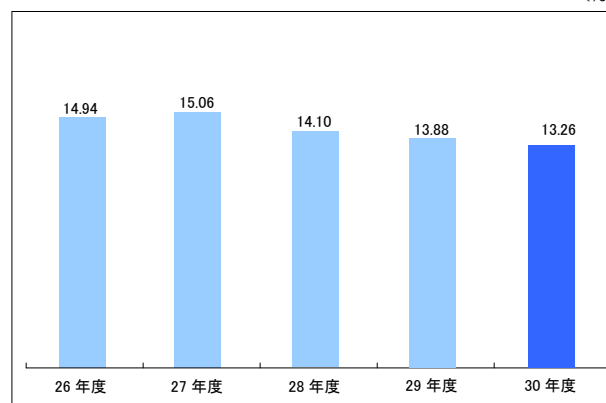
平成 30 年度の自己資本の状況

■自己資本比率

13.26%

当 JA では、多様化するリスクに対応するとともに、組合員や利用者のニーズに応えるため、財務基盤の強化を経営の重要課題として取り組んでいます。内部留保につとめるとともに、不良債権処理及び業務の効率化等に取り組んだ結果、平成 31 年 3 月末における自己資本比率は、13.26%となりました。(パーゼルⅢ規制に基づき算出)

(%)



■普通出資による資本調達額

項目	内容
発行主体	たじま農業協同組合
資本調達手段の種類	普通出資
コア資本に係る 基礎項目に算入した額	4,503 百万円 (前年度 4,526 百万円)

自己資本の詳細については、56 ページをご覧ください。